

第36回 (2019年度) 助成者一覧表

【 研究助成 】

部門	No	研究者	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマの概略	研究テーマの対象・手段・目的等
工学	1	ヤスイ タカオ 安井 隆雄	名古屋大学大学院 工学研究科 准教授	ナノ空間化学、分析化学、ナノ材料科学、医工学	尿中microRNA解析による非侵襲脳腫瘍診断法の創出	本研究は、手術によって得られる腫瘍検体を用いた解析が必須であったこれまでの脳腫瘍の分子診断に変革をもたらすべく、尿に含まれるmicroRNAの次世代解析システムにより、検体尿解析による術前の脳腫瘍の分子診断、予後予測や手術困難症例の診断、治療方法の早期選択や術前薬物療法の可否に寄与する非侵襲診断法の創出を達成する。
	2	チョ ヨンファン 趙 容桓	名古屋大学大学院 工学研究科 助教	海岸工学、海洋工学	混合土砂漂砂モデルの拡張および砕波帯における粘土の流失による粘土/砂層の分離メカニズムの数値的一考察	砕波帯における粘土流失による粘土/砂層の分離メカニズムを長時間計算が可能な混合土砂漂砂モデルを用いて解明し、人工干潟における粘土分の効率的な動的管理に活用できる数値計算モデルの構築を目指す。
	3	イチハラ ダイスケ 市原 大輔	名古屋大学 工学研究科 航空宇宙工学専攻 助教	圧縮性流体力学、構造力学	エアロバリストティックレンジを用いた火星着陸用超音速パラシュートの自由飛行特性評価	火星着陸用超音速パラシュートに関して、火星大気の主成分である二酸化炭素雰囲気中での超音速自由飛行特性の取得を目的とする。エアロバリストティックレンジを用いてパラシュート模型を超音速まで加速し、測定部内に充填した二酸化炭素雰囲気中を自由飛行させる。パラシュートの開傘から減速にかけての一連の挙動を高速カメラで撮影し、各画像間の相互相関係数から開傘時間、傘の安定性、模型減速度の3点に注目した解析を実施する。
	4	マツモリ ヒロアキ 松盛 裕明	名古屋工業大学大学院 工学研究科 電気・機械工学専攻 助教	電気工学、パワーエレクトロニクス、電磁気学	正弦波励磁時の鉄損値を用いた電力変換器動作時におけるインダクタ鉄損の計算法に関する研究	電力変換器動作時におけるインダクタ鉄損について、BHアナライザを用いて鉄損特性を解析し、正弦波励磁時の鉄損値を用いて計算できる計算手法の開発を目指す。
	5	イトウ タカヒロ 伊藤 孝弘	名古屋工業大学大学院 工学研究科 電気・機械工学専攻 助教	生体電磁気学	サブグリッド法に基づいた高速電磁界計算手法の開発と脳波源位置推定システムへの応用	電気回路論に基づいた精度のよい低分解能モデルの生成、またその逆計算による電界の高分解能化により、計算量を削減することで電磁界解析の高速化を検討する。さらに、これを多段で実装することでさらなる高速化を目指す。準静近似に基づく電磁界解析法に本手法を実装し、脳波源推定の順問題を高速に解くための電磁界ソルバーを開発する。
	6	ナカノ サトシ 仲野 聡史	名古屋工業大学大学院 工学研究科 電気・機械工学専攻 助教	制御工学・電気機械工学	車輪付きドローンの制御とそのインフラ点検への応用	車輪を取り付けたドローンの自動・半自動制御理論を構築し、シミュレーションおよび実機を用いた検証を行う。また構築した制御理論のインフラ点検への応用を目指す。
	7	ノザワ ヒデキ 野澤 英希	愛知工業大学 工学部 建築学科 准教授	建築学	環境配慮型社会への転換を目指した少子高齢化社会において大量に発生している建築ストックの有効活用の手法に関する研究	公共施設の多くを占める小中高等学校の廃校について、その発生状況と再利用の実態を調査し、地域活性化に寄与できる有効な活用の手法を明らかにする
	8	マツイ リョウスケ 松井 良介	愛知工業大学 工学部 機械学科 准教授	機能材料工学、弾塑性力学、塑性加工学、粉末冶金学	粉末冶金プロセスと加工熱処理による高機能TiNi形状記憶合金の開発	一つの材料の中で変態温度が徐々に変化する傾斜機能TiNi形状記憶合金を粉末冶金プロセスと加工熱処理を組み合わせる独自プロセスによって実現する。そのために、加工・熱処理パラメータの微視組織、変態特性および局所変形特性への影響の解明を目指す。この画期的な材料を開発できれば、シンプルな構造で「硬さとしなやかさ」の相反する要求を満足する医療用ガイドワイヤや、自己ストローク制御式アクチュエータ等のスマート素子を実現できる。
	9	ムネモト サトル 宗本 理	愛知工業大学 工学部 土木工学科 講師	構造工学、構造解析学、地震工学	孔あき鋼板ジベルの動的耐荷挙動の解明および耐荷性能評価手法の開発	土木構造物のずれ止めとして施工性やせん断剛性に優れた孔あき鋼板ジベルを対象に、地震動レベルの速度を有した動的荷重が作用した際の動的耐荷挙動を解明すること、さらにコストのかかる実験の省力化に向けた耐荷性能評価手法を提案することを目的としている。具体的な手段として、本校で所有する試験装置による動的載荷試験から対象の動的耐荷挙動を把握するとともに、数値解析を用いて動的耐荷性能を定量的に評価可能な手法の提案を目指す。
	10	タサキ ツヨシ 田崎 豪	名城大学 理工学部 電気電子工学科 准教授	情報学	単眼カメラ画像とロボット移動量を統合する人口知能による三次元計測技術の開発	自動運転車などの自律移動ロボットに搭載された一つのカメラによる二次元計測を研究対象とする。一つのカメラでは、二次元情報が失われるため、カメラから各物体までの相対的な距離は推定できても、実際の距離を計算することができない。本研究では移動ロボットで計測できるタイヤ回転量から得られた、ロボット移動量とカメラ画像を人工知能で統合することで、一つのカメラで実際の距離を計測し、障害物を検出できるロボットの実現を目指す
	11	ムラカミ ユウイチ 村上 祐一	名城大学 理工学部電気電子工学科 助教	高電圧工学	高電界パルス殺菌システムにおける殺菌効果の数値計算モデルの確立	高電界パルス印加による微生物の殺菌効果を定量的に評価できる数値計算モデルを確立する。実際に殺菌実験を実施し、その得られた殺菌結果と殺菌モデルによる計算結果を比較・検討することで、高精度な数値計算モデルを考案する。殺菌効果を正確に見積もることが可能になれば、高電界パルス殺菌を農学、食品工学等の分野に応用できる。
	12	ハコヤマ チハル 箱山 千春	中部大学 工学部 機械工学科 助手	塑性力学・塑性加工学	T字型絞り成形における成形限界応力を用いた曲げ曲げ戻し破断予測	高強度鋼板の曲げ曲げ戻し破断を成形限界応力で予測可能なことを利用し、実成形に近い条件であるT字型絞り成形における有効性を示す
	13	セキグチ ヒロト 関口 寛人	豊橋技術科学大学大学院 工学研究科 電気・電子情報工学系 准助教	半導体工学、光デバイス工学、光遺伝工学	光操作による脳活動パターン制御に向けたマイクロLEDアレイの開発	マイクロLED技術と光学設計により、空間分解能を高めて空間的なパターン光刺激、多色刺激を可能にするマイクロLEDアレイデバイスの作製を目指す。
	14	ヒキマ カズヒロ 引間 和浩	豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 材料エレクトロニクス分野 助教	無機材料科学、エネルギー関連化学	全固体電池の高エネルギー密度化に向けた、高容量Li2MnO3正極複合体の創製	・研究対象: 硫化物固体電解質を用いた全固体電池は、既存リチウム電池を凌駕する出力特性を発現する。エネルギー密度の点でもリチウム電池を凌駕する特性の実現を目指し、全固体電池用の正極材料を研究対象とする。 ・解決手段: 高容量正極材料として有望だがリチウムイオンや電子伝導度の低いLi2MnO3を、工業的に有利な電気泳動堆積(ElectroPoretic eposition, EPD)法により正極活物質、導電助剤、固体電解質を混合した電極複合体を作製し解決する。 ・目的: EPD法による、バルク型全固体電池用のLi2MnO3正極複合体の創製を行うことを目的とする。

【 研究助成 】

部門	No	研究者	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマの概略	研究テーマの対象・手段・目的等
工学	15	ハリガイトオル	豊橋技術科学大学大学院 工学研究科 電気・電子情報工学系 助教	電気・電子工学, プラズマプロセス, 炭素材料	RF混合ガスプラズマを用いた超硬質招動性膜の内面コーティング技術の開発	本研究では, RF放電により原料ガスと希ガスの混合ガスプラズマを生成し, そのガス流量比・圧力・放電電力等のプロセスパラメータに対する同プラズマの発光。電子電流・イオン電流等のプラズマパラメータ変化を分析することで, RF放電プラズマを利用した超硬質招動性膜の形成条件を解明し, これまで実現不可能であった同膜の内面コーティング技術の開発を目指す。
		針谷 達				
	16	ジメネス フェリックス	愛知県立大学 情報科学部 情報科学科 助教	情報科学, 知能ロボティクス, ヒューマン・ロボット・インタラクション	学習者の気持ちに共感するような感情を表出しながら, 問題を交互に解き合うパートナー型教育支援ロボットの開発	教育支援ロボットには, 学習者がロボットの行動を画一的と感じ, ロボットとの共同学習に飽きるという問題点がある。本研究では, ロボットの画一的な行動を防ぎ, 学習者の気持ちに共感するような多彩な感情を表出する共感表出法を構築する。また, 学習者と交互に問題を解き合う協調学習を持続させるロボットの行動モデルを開発する。そして, 学習者に飽きられることなく, 長期的に共に学ぶ合うパートナー型教育支援ロボットの実現を目指す。
Jimenez Felix						
17	イトウ マサヒデ	愛知県立大学 情報科学部 情報科学科 講師	ロボット制御	環境からの跳ね返りを考慮した物体の非把持マニピュレーションに関する研究	サッカーロボットによるボールの非把持マニピュレーションとして, 跳ね返りの数値モデルを考慮したなめ壁打ちキック法の構築を目指す。	
	伊藤 正英					
医学	18	タナカ イチダイ	名古屋大学 医学部附属病院 呼吸器内科 病院助教	分子腫瘍学	悪性中皮腫に対する新規治療法の開発に向けたPatient-derived xenograft (PDX) マウスモデルの作成	悪性中皮腫患者から得られる組織検体を免疫不全マウス(SCIDマウス)に移植し, Patient-derived xenograft (PDX) マウスモデルを作成する。研究開発代表者は, 悪性中皮腫においてオキシチン受容体が高発現していることを発見しており, 作成したPDXマウスを用いて同受容体の阻害剤の効果検証を行う。さらに治療前後の組織切片を採取し, マルチオミクス解析を施行することで, 分子機構及び耐性メカニズムを解明する。
		田中 一大				
	19	イシガキ シンスケ	名古屋大学大学院 医学系 研究科 特任准教授	神経科学・神経病態科学	マーモセットモデルを用いた孤発性前頭側頭葉変性症(FTLD)のバイオマーカー開発	三大認知症のひとつである前頭側頭葉変性症(FTLD)について, FUSの機能喪失を基盤としたマーモセットモデルを作成し, 画像及び病理学的なマクロ回路解析および, 確率逆転学習を含む高次脳機能解析を行うことで, ヒトとモデル動物で共通のFTLD早期バイオマーカーを開発する。
		石垣 診祐				
	20	サカモト カズマ	名古屋大学大学院 医学系研究科生物化学講座 助教	生化学	近位依存性ビオチンラベル法と定量的プロテオミクスによるチロシンフォスファターゼの基質同定	基質分子のほとんどが未知である受容体型チロシンフォスファターゼ(RPTP)について, BioID法と定量的プロテオミクスを基盤とした高効率・高信頼度の網羅的基質同定法を確立することにより, 将来のRPTP研究・医薬への土台を築く。
		坂元 一真				
	21	サカモト ユウマ	名古屋市立大学大学院 医学研究科 臨床病態病理学分野 研究員	医学(病理学, 血液病理学, 腫瘍分子病理学)	悪性リンパ腫および固形癌におけるCCR4遺伝子変異およびCCR4蛋白発現の臨床病理学的意義の解明	血液系腫瘍は本邦において頻度の高い腫瘍の一つである。申請者らは昨年, 血液系腫瘍の中でも特に患者予後不良な疾患である成人T細胞性白血病/リンパ腫(ATL)において, CCR4遺伝子変異を有する患者群はCCR4抗体医薬(モガムリズマブ)の感受性が非常に高く, 長期生存が得られる可能性を発表した(Blood 2018;132:758-761)。本知見は, ATL以外のT細胞性リンパ腫だけでなく, 胃癌や乳癌等の固形癌においても適応され, がん治療の発展に大きく寄与する可能性がある。本研究では, ATL以外のT細胞性リンパ腫および多種類の固形癌を対象として, 多数症例を用いてCCR4遺伝子変異およびCCR4蛋白発現を解析して, その意義を明らかにすることを目的とする。
		坂本 祐真				
	22	ニシオ ヒデノリ	名古屋市立大学大学院 医学研究科 小児泌尿器科学分野	小児泌尿器科学	ヒストン修飾に関連した精子形成障害機序の解明による男性不妊症の新規治療法の確立	男性不妊症の原因に造精機能障害がある。停留精巣では造精機能障害が高率に発生するが, その機序は明らかでない。私たちは, 未分化精細胞から精子幹細胞である精原細胞への分化過程におけるヒストン修飾の作用が, 精子形成過程において重要と考えている。そこで, マウス精原細胞培養株, ラット停留精巣, ヒト停留精巣組織を用いて, ヒストン修飾に関連した精子形成障害機序を解明し, 男性不妊症の新規治療法の確立を目指す。
		西尾 英紀				
	23	ヒメノ タツヒト	愛知医科大学 医学部 内科学講座(糖尿病内科) 講師	内科学(糖尿病学ならびに内分泌学)	糖尿病性神経障害におけるNotch-インスリンシグナルの病態形成への関与の解明	実験動物を用いて糖尿病性神経障害の機序を解明する。検証する主たる分子生物学的メカニズムは, 2型糖尿病におけるinsulin signaling異常と神経幹細胞/前駆細胞(NSC/NPC)の維持経路であるNotch signalingの相互作用である。このメカニズムに関して, 私どもの立てた仮説は, "insulin-Notch連関を介して末梢神経系神経前駆細胞および神経幹細胞が早期に増殖・分化し枯渇することが, 糖尿病性神経障害の発症機序ではないか"というものである。この仮説を末梢神経系特異的なNotch抑制・欠損マウスおよびインスリンシグナル欠損マウスを用いて検証する。
		姫野 龍仁				
24	ヒョウドウトシノリ	愛知医科大学 医学部 生化学講座 講師	細胞生物学, 生化学	新たな細胞分裂制御因子の同定とその機能解析, および同定した因子ががん治療への標的分子となり得るかの検討	がんや感染症の克服へつながら「細胞分裂の完全制御」を成し遂げるため, いまだ明らかになっていない分裂の制御因子, 機構を明らかにすることを試みる。そのために申請者が新たに見出した分裂「速度」を制御するタンパク質, LUZP1の詳細な機能を細胞生物学的, 生化学的手法を用いて明らかにする。また分裂速度の制御が, がん治療の標的となり得るかを検討する。	
	兵頭 寿典					
25	オオバシゲオ	藤田医科大学 医学部 脳神経外科 准教授	脳腫瘍	変異型IDH1により誘導されたiPS細胞由来グリオーマ細胞を用いた腫瘍化機構の解明と新規治療法の探索	iPS細胞に変異型IDH1を導入し, 分化させることでグリオーマモデルを作成する。このモデルを用いて腫瘍化過程における遺伝子の変化や代謝の変化を網羅的に解析し, 新規治療法を探索する。一方, 変異型IDH1を有するグリオーマモデルと有さないグリオーマモデルとの差異に着目し, それぞれの特性に応じた治療法を考案する。	
	大場 茂生					
26	フジサワ ハルキ	藤田医科大学 医学部 内分泌・代謝内科学 講師	内科学, 内分泌学	浸透圧性脱髄に対する再生治療の開発	浸透圧性脱髄は, 低ナトリウム(Na)血症治療時の合併症で, 血清Na濃度が急速に上昇することによって発症し, 意識障害, 四肢麻痺, 偽性球麻痺, 呼吸障害等の一部は不可逆的な症状を呈し, しばしば致命的になる重篤な疾患である。本研究では, 浸透圧性脱髄モデルマウスに治療候補となる薬物または幹細胞を投与し, 髄鞘再生の促進による浸透圧性脱髄の治療法を開発することを目的とした。	
	藤沢 治樹					

【 研究助成 】

部門	No	研究者	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマの概略	研究テーマの対象・手段・目的等	
法学・経済・経営	27	アーマドバ メーリバン AHMADOVA Mehriban	名古屋大学大学院 経済学研究科 産業経営システム専攻 講師	会計学(国際会計・イスラム会計)	イスラム銀行における開示内容の改善に有効な制度の研究	イスラム銀行の年次報告書を対象に、イスラム教の教義に反する収入の有無、あるいはその扱いに関する開示内容を調査することによって、どのような制度が、開示内容の改善に有効かを明らかにする。それによって、イスラム銀行の開示を改善するために必要とされる開示ルール、企業統治の仕組み、あるいは国の監督機関の機能などを明らかにする。	
	28	フジタ シンヤ 藤田 真哉	名古屋大学大学院 経済学研究科 准教授	制度経済学・マクロ経済学	需要サイドの構造と動態を考慮した新しいイノベーション理論の構築	「資本主義の多様性アプローチ」が明らかにしたように、各国の制度的構造が異なれば、供給サイドにおけるイノベーションの創出パターンも異なる。そしてまた制度が異なれば、需要形成のパターンもまた異なるだろう。本研究では、制度が生み出す有効需要の創出と制度が生み出すイノベーションが整合的である場合にのみ、イノベーションが経済成長に結びつくことを理論的・実証的に示す。	
	29	タマガキ ショウイチロウ 玉垣 正一郎	名古屋大学大学院 法学研究科 特任講師	法学教育・専門日本語教育	日本語学習者に対する法学ライティングの指導内容及びその方法に関する研究	本研究の目的は、「日本語を母語としない日本語学習者が日本語での法学ライティングの技法を習得するために、どのような内容をどのような方法で指導すべきか、法学の専門家と日本語教育の専門家の共同研究により、指導内容とその方法を明らかにすること」である。この目的を達成するため、法学ライティングの観点から見た日本語教育の問題点を明らかにし、かつ、法学ライティングにおける必要な条件を整理する。そのうえで、「日本語学習者のための法学ライティングの教材」という成果物の作成を最終的な目標とする。	
	30	ミズシマ トモノリ 水島 朋則	名古屋大学大学院 法学研究科 教授	国際法学	国の元首等に対する刑事裁判権の行使をめぐる最近の動向に関する国際法研究	国連国際法委員会による「外国の刑事裁判権からの国家職員の免除」に関する条文草案作成作業や、スーダンのバシル大統領(当時)の逮捕・引渡しに関する国際刑事裁判所の決定、アフリカ連合による国の元首等の免除に関する国際司法裁判所の勧告的意見の要請提案など、国の元首等に対する刑事裁判権の行使をめぐる最近の動向を素材として国際法の観点から研究を行い、この分野における法の「在る姿」を解明するとともに「在るべき姿」を探求する。	
	31	ナカムラ マサト 中村 将人	中京大学 総合政策学部 准教授	会計史	「南満洲鉄道」における会計実務の解明に関する研究 —政府介入と固定資産会計—	「南満洲鉄道(満鉄)」の会計実務を、会計報告書・会計帳簿・内規・社内マニュアルの分析によって解明し、国策会社の会計に対する政府介入の影響および日本鉄道業における固定資産会計の展開に関する知見を得る。	
	32	オオガネ ユウタ 大鐘 雄太	南山大学 経済学部 経済学科 講師	金融・ファイナンス	起業を成功に導く人的資本に関する研究	新規開業企業の資金調達と業績という観点からみた起業の成功について、特に起業家の人的資本に着目して分析することにより、起業を成功に導く人的資本の解明を目指す。	
	33	ホツタ オサム 堀田 治	南山大学 経営学部 経営学科 准教授	経営学 消費者行動論、マーケティング、アート・マネジメント	体験消費における超高関与から無関心まで ~その消費者像の研究	「体験消費」とは、製品の購買・所有ではなく、体験として時間や空間を楽しむことに伴う消費である。消費者自身にとって大切な場所や体験、仲間との活動の共有など「体験することそのもの」が追求される。このような消費行動について研究を行い、消費者像を捉えマーケティングへの知見を得ることを目的とする。体験消費領域におけるいくつかの研究を並行して進め、インタビューおよびネットによるアンケート調査を行う。定量的分析とともに、コメントの内容分析を行いながら体験消費における理論の構築を進める。	
	34	ツジ タカシ 辻 隆司	愛知大学 経済学部 教授	地域経済学、経済地理学、行動経済学、応用計量経済学	住環境と幸福感に関する総合的研究	本研究の目的は、幸福の経済学と心理学の知見を用いて地域における幸福度関連指標のあり方を検討した上で、都市の景観やアメニティ、歴史芸術文化資産等の地域資源が、主観的幸福度等へのどのような影響を与えるのかについて分析を進めることである。特に、地域への愛着心や社会関係資本等に注目し、主観的幸福度への影響経路の解明を目指す。主な研究方法は、国内外における幸福度関連指標の活用事例等の実地調査と既存アンケート調査を用いた統計解析である。	
	35	ミズノ タカヒコ 水野 孝彦	愛知大学 経営学部 准教授	財務会計	連結会計上の支配獲得後における親会社の持分変動に係る処理についての論点の明確化と連結財務諸表の基礎理論の再考	現行の国際会計基準(IFRS)、米国会計基準(U.S.GAAP)、日本基準で実施されている連結会計上の支配獲得後における親会社の持分変動に係る処理についての論点を明らかにするため、現行の処理に大きく変更されるに至った頃の議論に遡り、背景の考えや概念上の問題点を考察するとともに、これに関連して、連結財務諸表の基礎理論の再考を試みる。	
	36	ミノチ マサアキ 溝淵 将章	愛知大学 法学部 助教	法学	金融機関における利益相反をめぐる私法的観点からの考察(秘密保持義務と情報提供の衝突事例を中心とした考察)	複数の業務を併営する金融機関(銀行、証券会社等)が、複数の顧客との間の利益が相反する状況に置かれた場合に、それぞれの顧客に対して、どのような私法的義務を負うのかを、外国法(主にアメリカ法およびドイツ法)の議論を手がかりに考察し、日本法における法解釈論を提案する。	
	37	オカノ ジュンジ 岡野 純司	愛知学院大学 商学部 准教授	経営史・法学(経済法学(独占禁止法)・契約法学)の学際的な研究	法学の知見を取り入れた、百貨店が納入取引に利用する取引慣行(返品制・派遣店員制)に関する実態・変化の歴史的研究 —戦前期から1950年代までの期間を対象として—	研究対象期間において、百貨店が納入業者との取引で利用する取引慣行(返品制・派遣店員制)について、内部環境として百貨店・納入業者間の経営資源の相互依存関係と百貨店による当該取引の統制、外部環境として消費・生産の変化と優越的地位の濫用規制に着目して、法学の知見を取り入れてその実態・変化を明らかにする。定性的な研究方法を用い、百貨店等の社内資料・社史、官公庁・事業者団体等による実態調査資料、文献等を用いて研究を進める。	
	芸術	38	イシクラ マホ 石倉 茉歩	愛知県立芸術大学 美術研究科(博士後期)美術専攻 1年	日本美術(絵画)	「吉備大臣入唐絵巻」の復元模写と熟紙加工研究 —本紙の光沢再現による鑑賞性の復元—	本研究では、ボストン美術館所蔵「吉備大臣入唐絵巻」(12世紀)の復元模写及び熟紙加工研究を行う。復元模写を行うにあたり、原本本紙表面の光沢を伴う平滑感に着目した。同時代絵巻作品の修理経験のある装演師の方へ調査したところ、この光沢は修理によるものではないとの意見を得た。この光沢を料紙の滲み止めを目的とした熟紙加工によるものと仮定し、原本や同技法法例の多角的調査を基として、同時に錯簡が疑われている本絵巻のその工程や材料の特定を試みる。制作当時の彩色だけではなく、本紙の光沢といった質感まで再現することによって、より原本と印象の近い復元模写を制作することを最終的な研究目的とする。
		39	スズキ ミホ 鈴木 美穂	愛知県立芸術大学大学院 音楽研究科(博士後期課程)音楽専攻	音楽・鍵盤楽器(ピアノ)	「19世紀ロシア・ピアノ音楽の発展におけるパーヴェル・パブストの影響とその功績」	ロシアを中心に活躍した音楽家パーヴェル・パブスト Pavel Pabst(1854-1897)のピアノ編曲作品の手法を分析し、彼の音楽様式を明らかにする。さらに彼の弟子の演奏音源からパブストの特色の影響が聴き取れることを証明することで、19世紀に急激な発展を遂げたロシア・ピアノ音楽におけるパブストの影響を認め、その功績を再評価することを目指す。
		40	ニワ ナツキ 丹羽 菜月	愛知県立芸術大学大学院 音楽研究科(博士後期課程)	音楽(作曲)	日本の伝統から着想を得た音楽作品における新たな作曲モデルの提示	日本の伝統音楽から着想を得た音楽作品、特に湯浅譲二(1929-)の作品について音楽的な分析を行い、作品に用いられている技法や様式を明らかにした上で、今日的な手法で新たな作品を生み出す作曲モデルを提示することである。
41		リン ショウ 林子翔	愛知県立芸術大学大学院 美術研究科(博士後期課程)デザイン専攻	ユニバーサルデザイン	触知図形を活用したデザイン研究 視覚障害者も鑑賞できるグラフィックデザインをめざして	本研究では、グラフィックデザインを通じて、視覚的な情報を触覚情報にし、触知図形の制作を行っている。視覚障害者にグラフィックイメージを伝えるため、手触りに影響する紙の素材や制作方法を研究する。当事者の触診監修を経て、触って分かりやすいのはもちろんのこと、触知図形の楽しさ、面白さ、美しさなどを追求し視覚を使う人・使わない人誰もが鑑賞できる触知図形を提案し、ユニバーサルデザインとしての製品開発の実現化を目指す。	
計	41						

【 海外派遣助成 】

部門	No	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマの概略	研究テーマの対象・手段・目的等	
工学	42	ウエノ トモナガ	名古屋大学大学院 工学研究科 化学システム工学専攻 助教	材料工学	非線形化学反応による材料内での自発的なパターン形成と自己組織化に関する研究	アメリカ合衆国、ボストンで開催される国際会議(2019 MRS Fall meeting) で研究発表を行い、自己組織化材料の情報収集および意見交換を行う。
		上野 智永				
	43	サクライ ジュンペイ	名古屋大学大学院 工学研究科 マイクロ・ナノ機械理工学専攻 准教授	金属工学、機械工学	Ti-Ni-Cu高成形形状記憶合金の大量作製のため、単ロール法を用いた急冷凝固法により作製したリボン材の非晶質時の金属ガラス、及び結晶化後の形状記憶特性の物性評価、及び成形加工特性の評価	中国で開催される国際会議“The 13th International Conference on Bulk Metallic Glasses (with High Entropy Alloys)(BMG III)”で研究発表を行い、金属ガラスの物性やマイクロ・ナノデバイス応用に関する情報収集および意見交換を行う。
		櫻井 淳平				
	44	アラ ラヒオ	名古屋工業大学大学院 工学研究科 博士後期課程 電気・機械工学専攻	機械工学	硬質磁性微粒子を分散した磁性エラストマーの磁気的性質と機械的性質の調査、および新規セミアクティブアクチュエーターの開発	オーストラリアで開催される国際会議「The 17th International Conference on Electrorheological Fluids and Magnetorheological Suspensions (ERMR2019)」で研究発表を行い、磁性エラストマーの基礎と応用に関する情報収集および意見交換を行う。
		Allah Rakhio				
	45	チャン ブウ チュン	名古屋工業大学大学院 工学研究科 博士後期課程 電気・機械工学専攻	電気電子工学	産業用ロボットの高速高精度制御に関する研究開発	2019年10月14日～17日にポルトガル・リスボンで開催される米国電気電子工学会(IEEE)第45回産業電子部門年次会議(45th Annual Conference of the Industrial Electronics Society)でモーションコントロールに関するオーガナイズドセッションにて研究発表を行い、産業用ロボットの位置決め制御に関する情報収集および意見交換を行う。
		TRAN VU TRUNG				
	46	グエンドウイ デイン	愛知工業大学	パワーエレクトロニクス、電力工学	次世代電力半導体を用いた高効率変換器の開発 本研究では、次世代半導体であるシリコンカーバイドあるいは窒化ガリウムを用いた交流—直流、直流—直流変換器の開発を行う。さらに開発した変換器を用いて、再生可能エネルギーの連系装置あるいは、EV給電器の開発を行う。	ベトナム国で開催される国際会議 VPPC2019(次世代電気自動車に関する国際会議)で研究発表を行い、世界における電力変換の情報収集および意見交換を行う。この会議では、論文を3件投稿しており、そのうちの1件の論文タイトルは、D.D. Nguyen, K. Yukita, “Design optimization of a three-phase Dual-Active-Bridge converter for charging stations”を発表する予定です。
		NGUYEN DUY DINH				
	47	セイケ ヨシユキ	愛知工業大学 工学部 電気学科 教授	電気電子材料学	超音波を応用した次世代半導体デバイス洗浄技術の開発と洗浄メカニズムの解明	米国で開催される国際会議16th International Symposium on Semiconductor Cleaning Science And Technology (SCST16)(236th Electrochemical Society Meeting,symp.G01)で研究発表を行い、半導体デバイスの製造プロセス最新情報収集および意見交換を行う。
		清家 善之				
	48	ツチャ ブン	名城大学 理工学部 教授	エネルギー材料物性学	リチウム酸化物セラミックス材料を用いた二酸化炭素回収システムの開発	カリフォルニア大学サンタバーバラ校のオデット教授の研究室において、二酸化炭素回収システムの開発を目指し、研究打ち合わせおよび実験を実施する。また、2020年9月13日から16日までアメリカ合衆国ワイオミング州モーラン・ジャクソンレイクロッジで開催される水素—金属国際会議に参加し、研究成果を発表するとともに情報収集および意見交換を行う。
		土屋 文				
49	ヒロセ マサフミ	名城大学 理工学部 環境創造学科 准教授	気象学、衛星気候学	長期衛星搭載降水レーダーデータによる降水気候学・推定誤差の評価、および高精細降水データセット開発	アメリカ・インディアナポリスで開催されるアメリカ航空宇宙局主催の降水観測ミッション科学チーム会合に参加して、衛星搭載降水レーダーデータを用いた研究成果についてポスター発表を行い、各種降水プロダクトの評価や次期衛星計画について情報収集を行う。	
	広瀬 正史					
50	イナガキ ケイイチロウ	中部大学 工学部 ロボット理工学科 講師	神経科学、生体情報工学、計算科学	文脈が絡む複雑な運動の制御・学習を実現する人工小脳の開発	オーストラリアのシドニーで開催される国際会議26th International Conference on Neural Information Processing of the Asia-Pacific Neural Network Societyにおいて、文脈が絡む運動の制御と学習を実現する小脳の信号処理機構について詳細な人工小脳によってシステムレベルならびに小脳内の個々の細胞応答レベルで評価した結果に関する研究報告を行い、運動の文脈を処理する小脳内信号処理に関して情報収集および意見交換を行う。	
	稲垣 圭一郎					
51	イノウエ ハヤト	豊橋技術科学大学大学院 工学研究科 応用化学・生命工学専攻 博士前期課程	有機合成化学、錯体化学	Ru—C(sp ²)結合を含む新規ルテニウム錯体の開発とその触媒的不斉シクロプロパン化反応への応用	12月2日～4日の日程でオーストラリアのメルボルンで開催される国際会議Catalysis Science and Chemical Engineering(CatScience)で新規ルテニウム錯体の開発と、それらを触媒として用いるカルベン移動型触媒的不斉シクロプロパン化反応への応用について研究発表を行う。世界から集まる最先端の研究者らと意見交換するとともに、メルボルン大学を訪問し、最新の有機合成化学および錯体化学の研究について情報交換、セミナー参加を行い知見を深める。	
	井上 颯斗					
52	オバタ ケンタ	愛知県立大学 情報科学部 情報科学科 助教	データサイエンス、衛星リモートセンシング	静止地球環境観測衛星ひまわり8号を用いた植生変数推定に関する研究	米国で開催される国際会議AGU Fall Meeting 2019にて研究発表および関連研究の最新動向に関する情報収集を行う。また連携する研究者とコミュニケーションを図り今後の連携強化につなげる。	
	小畑 建太					
医学	53	ヨコイ サトシ	名古屋大学 医学部附属病院 脳神経内科 医員	筋萎縮性側索硬化症の病態研究、治療薬開発研究	筋萎縮性側索硬化症(Amyotrophic lateral sclerosis:ALS)の病態を、病原性RNA結合蛋白質であるFUS(fused-in-sarcoma)の代謝異常の観点から研究し、特定のRNA代謝異常をターゲットにした治療薬の開発研究を行っている。	
		横井 聡				
	54	スギノ テルアキ	名古屋市立大学大学院医学研究科 研究員	泌尿器科学・腎結石症	腎結石は、腎の炎症性疾患であるとともに、メタボリックシンドローム(MetS)との関連が深い。“褐色脂肪細胞”は、抗MetS作用を示すと注目され、全身性の抗炎症作用を持つとの報告が見られる。本研究は、褐色脂肪細胞が持つ抗炎症作用を応用した腎結石形成の抑制メカニズム解明、および腎結石の予防薬開発を目指す。	派遣候補者はこれまでに、褐色脂肪細胞が腎結石形成を抑制することを発見し、世界で初めて報告した。しかし、詳細なメカニズム解明には至っていない。2020年の3月にオランダのアムステルダムで開催される、欧州泌尿器科学会(European Association of Urology 20)で研究発表を行い、詳細な腎結石形成メカニズムに関する情報収集および意見交換を行うことで、本研究テーマが抱える課題や問題点を明らかにする。
杉野 輝明						
55	イケガミ ケイスケ	愛知医科大学医学部 助教	時間生物学、眼科学	網膜には概日リズムがあるが、SCNからどのようにして網膜に情報が伝達されるか詳細は明らかになっていない。 本研究テーマは、マウス時差ぼけ実験を応用して、網膜概日リズムの制御経路の探索と、組織特異的時計遺伝子Bmal1欠損マウスを用いた、網膜概日時計の光応答性リズムにおける機能解析である。	アメリカで開催される国際学会であるアメリカ時間生物学会(SRBR2020)で網膜概日リズムに関する研究発表を行い、最新の時間生物学および生理学の情報収集を行い、概日リズム研究について意見交換を行う。	

【 海外派遣助成 】

部門	No	所属	研究テーマの専門領域	研究テーマの概略	研究テーマの対象・手段・目的等	
法学・経済・経営	56	イトウ カンナ	名古屋大学大学院 経済学研究科 准教授	西洋経済史/金融史	イタリアの「奇跡の成長」の実証的検証：戦後のイタリアにおける国民経済の再生と成長を、国際通貨・貿易体制の再建と資本市場の復活というグローバル化の文脈の中に位置づけ、歴史実証的に解明する。イタリアの経験をケーススタディとして、戦後の国際金融秩序の形成とヨーロッパ統合の進展が、加盟国のマクロ経済政策および産業・金融政策にどのような制約や影響を与えたかを検証する。	イタリアの中央銀行等の公文書館において、金融政策および開発計画を巡る議論に関する資料を収集する。また、最大手銀行バンカ・インテザにおいて、1950年代から60年代のイタリアにおける外国為替管理下の実務について史料を調査・収集する。ポーランド大学・ミラノ大学にて教授らと懇談し、戦後イタリアの経済成長における政策構想、為替管理、民間銀行の外為業務、国際機関との連携について情報収集および意見交換を行う。
		伊藤 カンナ				
	57	サイトウ ユリエ	中京大学 経済学部 准教授	公共経済学 財政学 地方財政論	クルーズ船寄港による港湾整備と地方港湾の活性化	アジアにおけるクルーズ人口についてのヒアリング、特に台湾のクルーズ人口の増加の要因における情報収集、港湾整備状況についてのヒアリングおよび研究者との意見交換を行う。
		齊藤 由里恵				
	58	アカホシ タカシ	南山大学 経済学部 経済学科 講師	ミクロ経済学理論	研修医マッチングにおける「僻地病院問題」の改善の解決策を探ることを目的とする理論研究を行う。医学部卒業生を研修先病院へ配属する「研修医マッチング」は日本を含め多くの国で実施されている。その中で、研修医の地域偏在が問題になってきた。この問題に対し、本研究では大きな制度変革を伴わない改善の解決策の可能性を探る。	2020年にメキシコシティでの開催が予定されている国際会議“The 15th Meeting of the Society for Social Choice and Welfare”に参加する（開催地・時期については前回大会で参加者に対してアナウンスされた内部情報に基づく）。研究報告を行う予定である（実際の報告申込は今冬の予定）。合わせて他の参加者たちと広く意見交換を行う。
		赤星 立				
59	キムラ ヨシカズ	愛知大学 法学部 准教授	民法	フランチャイズ契約の研究	アメリカ合衆国で開催される全米セブン-イレブン加盟店協会連合（The National Coalition of Associations of 7-Eleven Franchisees。以下、NCASEFと略する。）のトレードショーを視察し、NCASEFの幹部と意見交換を行う。	
	木村 義和					
60	アマノ シゲアキ	愛知淑徳大学 人間情報学部 教授	言語心理学	ウイスキーの味と香りの分かりやすい表現語の特定	ウイスキーの味や香りの表現語には、一般人にとって分かり難く馴染みのない単語が多い。その改善を目的とし、心理学的実験手法の1つである評定尺度法を用いて、英語と日本語における表現語の馴染みの程度のアンケート調査を実施する。調査結果に基づいて、一般人でもウイスキーの味と香りを簡単にイメージできる、分かりやすい表現語を特定する。	
	天野 成昭					
61	アム セチュントニー	愛知県立芸術大学大学院 音楽研究科 作曲専攻	作曲	フィンランドの作曲家、マグヌス・リンドベルイの代表作である《クラフト》における、ファウンド・オブジェクトを用いた音作りの考察	本研究は、アム・セチュントニーさんが、ドイツのパンクロックバンド、アインシュテュルツェンデ・ノイバウテンの音楽性、特にファウンド・オブジェクトの取り扱い方法がフィンランドの作曲家マグヌス・リンドベルイの代表作である《クラフト》の美学的なコンセプトを音楽的に成立させるのに、どのような影響を与え、またどのような役割をしているのかを明らかにすることを目的としています。	
	アム セチュントニー					
62	ナリモト リカ	愛知県立芸術大学 音楽学部 作曲専攻 作曲コース 准教授	作曲	日本の伝統音楽から着想を得た日本の現代音楽、および日本の伝統音楽から着想を得た作曲。現代美術作品など音楽以外のジャンルから着想を得た作曲。	フィンランドのヘルシンキにてThe Finnish Soloists' Association主催により開催されるAutumn 2019 Soloists' Concert Seriesにて派遣候補者、成本理香准教授の新作を発表する。シベリウス音楽院（ヘルシンキ）にて成本理香准教授の音楽作品についてのレクチャーを行う。同時にシベリウス音楽院との将来的な交流の可能性を探る。本学の提携校でもあるタンペレ応用科学大学（TAMK、タンペレ）を訪問し、お互いの親睦を深め、今後の学術交流、共同研究等の可能性を探る。	
	成本 理香					
計	21					

合計 62